

主 題：女々しい男は疎まれる

聖書箇所：コリント人への手紙第一 16章13-14節

今日、私たちは男らしさ、女らしさという定義がまったく変えられてしまった社会に生きています。この世の中を見ると、社会においても家庭においても男性と女性の役割の違い、その性質の違い、機能の違い、そのようなものについてまったく相違を見なくなってしまった、そのような状況が起こっています。多くの男性たちは彼らがもつべき男らしさを失い、単に、それは肉体的な表面的な男らしさの現われだけでなく、その性質、性格においてより女性的、もしくは、中性的な人物が増えてきました。同時に、より多くの女性たちは本来男性が為すべき役割を自分たちが行ない、私たちも同等であると叫び続ける、そのような世の中に私たちは今生きています。確かに、私たちは神の前において同等な者であり、神は男性と女性を同等の存在として創造され、同等な者として神の御前に立つようにしてくださいました。けれども、その同等さの中において、聖書は私たちに確かに男性と女性の間には役割の違いがあるということを明確に教えています。聖書には、神は最初に男性を造り、その男性にリーダーとしての働きを与えたことが記されています。そして、同時に、神は女性を2番目に造り、その男性の働きを助ける者とされたことを見るのです。私たちがよく覚えておかなければいけないことは、創造の1週間を見たとき、神は六日目に男性を造った後、このように言われました。「**人が、ひとりでいるのは良くない。…**」（創世記2：18）と、それゆえに、神はアダムからエバを創造し、彼を助け彼の必要を満たすことができるエバ、女性を造った後、初めて、神は全世界をご覧になって「**…見よ。それは非常によかった。**」（創世記1：31）と言われたことです。男性が男らしさを失い、女性が女らしさを失い、男性の役割を女性が担うようになり、女性の役割を男性が担うようになって行くそのことは、実は、創造のみわざが終わってまもなく起こったことです。人類が罪を犯した後、神はエバに対してのろいことばとしてこのように宣言されました。「**あなたは夫を恋い慕う…**」（創世記3：16）と。ここで言われていることは、女性が男性を支配したいと思うようになるということです。それに対して男性はその支配権を争ってでも何とかして奪い取ろうとして、そこに戦いが起こるといえるのです。神はそのように初めから私たちに宣告しておられました。罪がもたらされたゆえに、男性と女性の間で主導権の争いが起こると。しかし、何が不思議かという、今現在、私たちが生きているこの社会において、男性が男性の役割を果たさず、女性が女性の役割を果たさないことに対して、だれも何の関心も払っていないということです。それはこの社会に起こっているだけでなく、何よりも驚くことは、教会の中で、クリスチャンの間でそのことが起こっているということです。キリスト教会の中で多くの人々はこの役割、男性と女性がもつ役割ということに関して、この世の影響を受け混乱しています。その結果、教会には真の聖書的な男性におけるリーダーシップが欠落し、家庭においては聖書的な夫たちが不在なのです。私たちがそのことを考えるとき、私たちは神が求める男らしさ、神が求める女らしさ、それを取り戻すことが急務であるということを理解しなければいけません。そして、それはどこから始まるのか、男性が男らしさを回復するところからです。なぜなら、神は男性にリーダーとしての責任を与えられたからです。

このような状況は現代社会にのみ見られることではありませんでした。実際に、コリントの教会において似たような状況が起こっていました。問題に満ちたコリントの教会では、確かに、成熟した聖書的な男性によって導かれるというそのリーダーシップが欠落していたのです。それゆえに、この長い手紙を書いたパウロは、その最後に、コリントの人たちに向けて五つの命令を為すことによって、この手紙をまとめて行こうとします。これらの五つの命令、勧めというのは、確かに、男性も女性も含めた教会全体に向けられたものでした。パウロは教会のすべての人たちがこの命令にしっかり耳を傾けるようにと願っていたのですが、パウロは特に男性に対して、この命令をしっかり受け、しっかり聞き、それをしっかり自分のものにして生きなさいと命じていると私は確信しています。なぜなら、教会においてリーダーとして立てられているのが男性たちだからです。私たちは今朝、この五つの命令を見て行きます。パウロはここで私たちに男性が男らしく生きるということはどういうことなのかを教えてください。男性がもっている役割とは何なのか？男性が為すべき生き方とはどういうものなのか？そのことをパウロは明確に示しているのです。女性の皆さん、油断して聞かないでください。なぜなら、パウロは確かにこのことを教会に向けて語っているからです。皆さんもこのようであればいけないのです。けれども、男性の皆さん、よく耳を傾けてください。なぜなら、皆さんがこのように生きるか生きないかによってこの教会が、皆さんの家庭が、そして、この社会が主に喜ばれるものになるかどうかが決まるからです。今朝、このみことばをぐいっしょに見て行くことを通して、私たち男性がこのような神が求める男らし

さをしっかりもって生きて行く、そのような者になって行くという、その決意をもつことができるように、祈りのうちにこのみことばを学んで行きたいと思えます。

パウロはこのように語ります。Iコリント16：13-14「**13 目を覚ましていなさい。強く信仰に立ちなさい。男らしく、強くありなさい。14 いっさいのことを愛をもって行ないなさい。**」、パウロはここで五つのことを私たちに勧めています。

☆男性が男らしく生きるために

1. 目を覚ましていなさい

真の男らしさというのは「継続的な注意深さ」に現われます。「目を覚ましていなさい」ということばは、ことばだけを見るなら単純に「目を開いていなさい、よく見ていなさい」という意味です。実際に、新約聖書の中ではこのことばが寝ている人たちと起きている人たちの違いを表わすときに使います。イエスがゲッセマネの園で祈っている間に、弟子たちに「**あなたがたは、そんなに、一時間でも、わたしといっしょに目をさましていることができなかつたのか。**」(マタイ26：40)と言われたこのことばです。また、ときにこのことばは死んでいるクリスチャンと生きているクリスチャンを区別するために使いました。パウロは肉体的に死んでしまったクリスチャンのことを「眠った状態」だと言いました。それに対して、今生きているクリスチャンを「目を覚ましている」と言います。確かに、このことばには実際に「目が開いているか開いていないか」という意味があるのですが、それ以上に、聖書の中でこのことばが使われるときに言われることは、目が開いているゆえに「よく注意深く様々な事柄を見ている」、また、「警戒している」という意味があるのです。ペテロはIペテロ5：8-9で「**身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。9 強く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通して来たのです。**」と言っています。「目をさましていなさい」、サタンがあなたを誘惑しあなたをつまづかせようとさまよい歩いているから、目をさまして注意していなさい、警戒していなさいと言うのです。同じような意味で、イエスはマルコ14：38で「**誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。**」と言われています。私たちの霊的な目はよく開いていて、私たちの敵が私たちをつまづかせようと誘惑するとき、それに対してしっかり警戒していなければいけないし、注意深くなければいけないと言うのです。また、イエスはこのことばを用いて、ご自身の再臨の日にしっかりとした備えをしていることができるようにと言います。マタイ24：42にそのことが記されています。「**だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。**」、イエスがやって来られるその日に対して油断してはいけなさいと。また、使徒の働き20：31では、パウロがエペソの教会の長老たちに偽教師たちの危険に対してこのことばを使ってこのように言っています。「**ですから、目をさましていなさい。私が三年の間、夜も昼も、涙とともにあなたがたひとりひとりを訓戒し続けて来たことを、思い出してください。**」と。黙示録3：2では同じことば「目を覚ましていなさい」、「警戒していなさい」が霊的無関心さに向けられています。「**目をさましていなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行ないが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。**」と。このような様々な使い方を見てはつきり分かるように、このことばは単に「目を開いている、起きている」ということではありません。このことばが言わんとしていることは、私たちが目をしっかり開いて注意深く警戒しているということです。

コリントの教会にはまさにこのことが必要でした。教会の中にはこの「コリント人への手紙」を見れば分かるように、多くの危険がありました。人々は世の影響を受け、神のみことばよりも人間の知恵を重んじ、世の中でも見るような不品行が教会の中でたくさん行なわれ、兄弟姉妹どうしが争いのうちに互いに訴え合い、様々な間違った教師たちが間違った教理を教会の人たちに教え、人々は正しい道から逸れて行くというその問題の中に生きていたのです。それゆえに、パウロはこの手紙をまとめるに当たって言ったのです。「**目をさましていなさい**」、注意深くありなさい、眠ってはいけません、ぼーっとしてはいけません、あなたがたは注意深くなければいけませんと。この命令は理解するのにそれほど難しいものではありません。人々は、特に男性は、教会の中であって無関心で不注意で簡単にだまされてしまうようであってはいけなさいとパウロは言うのです。むしろ、彼らは注意深くあらゆることを考え、様々な事柄に心を配り、簡単にだまされない者であり続けなければいけなさいとパウロは命じるのです。このように、男性が注意深く様々な危険を見張る役割を果たしていることは、その男性の下であって導かれている者たちにとっては、何よりも重要なことです。それは教会においても、また、家庭においても同じことです。神は男性を家庭と教会を守り導く者として立てられたのです。ですから、もし、立てられた男性たちが本来は見張りをしていなければいけないのに、そこでぼーっとし、そこで眠り呆けていたら、いったい守られるべき愛する人たちはどんな危険にさらされることでしょうか？危険がやって来ても家庭のリーダーであり教会のリーダーである男性たちは警鐘を鳴らすことがな

いのです。それゆえに、男性が「目を覚ましていること」は何よりも大切なことなのです。けれども、残念ながら、今私たちが生きているこの社会において、教会の中にあっても、特に、家庭の中にあっても、男性の弱さはこの部分に現われています。いったい、どこに自分の妻の必要に目を向け、自分の子どもたちの必要に目を向け、教会の必要に目を向けて、注意深くそれらを守ろうとしている男性たちがいるのでしょうか？男性の皆さん、皆さんは十分にあなたの妻のこと、子どもたちのことを知っておられますか？彼らがどのような戦いの中において、どのような悩みを抱え、どのような問題を持ち、どのような事柄と葛藤しているのか、よく分かっておられますか？皆さんは家族や教会の兄弟姉妹たちと十分な時間を過ごすゆえに、いったいどのように最善な形で彼らを心遣い、彼らを守ることができるのか、分かっておられますか？父親が家庭の中にいない、見張り役である男性が教会の中にいない、そのことは次の世代へと大きく影響をもたらします。神は預言者ホセアを通してこのようなことを語っておられます。ホセア書4：6「わたしの民は知識がないので滅ぼされる。あなたが知識を退けたので、わたしはあなたを退けて、わたしの祭司としない。あなたは神のおしえを忘れたので、わたしもまた、あなたの子らを忘れよう。」と。あなたがわたしが教えたことをしっかりと覚え、神の前に正しく歩もうとしないゆえに、神は「あなたの子らを忘れよう」と言われるのです。アダムも実はこのように注意深くない人物だったと見受けられます。エバが誘惑を受けたとき、創世記の記事を見る限り、アダムは多分エバといっしょにいました。蛇が女を誘惑したとき、アダムは彼女を守ったのでしょうか？アダムはことばをひと言も発しないのです。彼はエバを守ることを怠ったのです。男性の皆さん、皆さんは自分が幸せであればそれで「よし」ですか？自分の責任を横においてその責任を妻や子どもたちに与えて満足できますか？自分が趣味に没頭することができ、仕事に没頭することができるなら、それでいいのですか？皆さんはが現代のアダムになりたいですか？自分の妻や子どもたちを誘惑の真中に置き去りにして、彼らが墮落して行くのを見ていることで平気ですか？皆さんの子どもたちは間違っただけで、危険な教えにさらされて毎日生きています。彼らは来る日も来る日もこの世における不道徳で不品行な悪に満ちた基準を、それが正しいと教えられて生きています。どのようにして皆さんは彼らを守りますか？どのようにして助けますか？男性の皆さん、あなたは起きておられますか？皆さんの目は開いていますか？危険が見えますか？その危険が迫って来たときにしっかり警鐘を鳴らせますか？パウロは言います、男性の皆さん、しっかり目を覚ましていなさいと。

2. 強く信仰に立ちなさい

二番目にパウロが言うことは「**強く信仰に立ちなさい**」ということなのです。真の男らしさは「教理的安定」に見ることができます。この「**強く信仰に立つ**」ということばは多分、コリント教会の読者たちに15章1節でパウロが語ったパウロのことばを思い起こさせたことでしょう。「**兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。**」、「**強く信仰に立つ**」というこの「**信仰に**」ということばは、信じる信仰のことではなく、彼らが立っていた福音のこと、彼らが信じていた内容のことです。聖書の中では何回かこのような使い方をされますが、ここで言われている「**信仰**」はまさに神が語っている、私たちが信じているその内容のことです。このことはコリントの教会にふさわしい命令でした。なぜなら、この教会はこの世の荒波にさらされていつもあちこちに揺れ動いている教会だったからです。悪い影響を受け続けて、何が良いことか何が悪いのかをはっきり区別することができない人たちに満ちていたのです。彼らは信仰において幼子であり、みことばに沿って正しく物事を判断することができなかつたゆえに、いつもゆらゆらと揺れ動いて、ある人たちは倒れてしまっていたのです。それゆえに、コリントの人たちはパウロによって「**強く信仰に立ちなさい**」と勧められるのです。コリントの教会には確かに偽教師たちがいました。彼らは間違っただけで福音のメッセージを伝え、人々に「福音のことばよりも人の知恵のほうがすばらしい」と言っていたのです。彼らは福音の根幹ともいえるべき「死からの復活」に関しても、疑いをもっていました。彼らはぐらついていました。それゆえに、パウロは「**強く信仰に立ちなさい**」と命じます。では、人はどのようにして「**強く信仰に立つ**」ことができるのでしょうか？いったい、どうすればこの世が投げかけてくる様々な疑問、問題に対して、吹き荒れる暴風の中で、私たちは揺れ動かないでしっかり立つことができるのでしょうか？論理的にしっかりと考えるなら、私たちは簡単にその答えを見つけることができます。もし、だれかが「**信仰において強く立ちたい**」と願うなら、その人はみことばによって教えられていなければならぬのです。ありとあらゆる事柄を神の真理と神の基準に基づいて判断することができるようになっていなければいけません。それゆえに、パウロはテサロニケの人たちに対してこのように言いました。Ⅱテサロニケ2：15「**そこで、兄弟たち。強く立って、私たちのことば、または手紙によって教えられた言い伝えを守りなさい。**」と。確かに、この世にはたくさんの違う概念が存在します。真理と呼ばれるものがたくさんあります。けれども、そのような中であって私たちは自分たちの思いをみことばの真理に満たし続けなければいけませんし、それによって、私たちの人生をみことばによ

って導かれなければいけないのです。何が正しいのか、神の前に喜ばれることは何なのかをしっかりと吟味することができるようになっていなければいけないのです。この世は私たちに、この世がもっている世界観に身を委ねるようにと訴えます。この世と同じ考え方をしなさいとプレッシャーをかけます。私たちがそれに屈するとき、そこには教理的な間違いが生み出され、そこからは悪と不品行に満ちた人生の基準が生まれて来るのです。そのような中で、クリスチャンである男性たちはしっかりと信仰に根ざし、そこに立ち、いったい何が主を喜ばせるのかを理解していなければいけないのです。

「見張る、注意深く」と言いましたが、何が正しく何が間違っているのかを知らなかったなら、どのようにして「注意深く」できるのでしょうか？何が危険で何が安全なのかが分からなかったら、いったい、どのようにして警鐘をならせませうか？私たちはみことばをよく知っていなければいけないのです。真理をよく理解し、それを用いて自分たちの人生を導いて行かなければいけないのです。もちろん、そのようにするためには、聖書的な知識を得ることが必要になります。そして、その聖書的な知識は単に基礎的なものではありません。私たちは聖書が教える最小限のことを知っていればそれでいいと思っていはいけません。信仰の基礎を学ぶことは素晴らしいことですが、基礎しか知らないでどのようにして生きていきますか？私たちはより深い、より多くの真理をしっかりと理解して生きて行かなければいけないのです。その学びをしなければいけないのです。私たちは「人はどのようにして救われるのか」ということを知っていればそれでいいのではないのです。もし、私たちが信仰ABC、聖書のABCしか知らなかったら、たとえば、皆さんの妻が落胆しているときにどのようにして妻を正しく励まし正しく慰め正しく戒め、彼女が喜びに満ちて生きて行くことができるように導くことができますか？いったい、どのようにして神に喜ばれる財産の使い方を理解することができますか？いったい、どのようにして世の中の様々な悪にさらされている子どもたちに正しく生きる生き方を教えることができますか？信仰のABCだけで、いったいどのようにして愛する家族を、愛する兄弟姉妹を、主に喜ばれ主を心から愛する人生へと導き進めて行くことができるでしょうか？男性の皆さん、皆さんは自分の妻よりもより多くのみことばの知識を蓄えるようにならなければいけないのです。なぜなら、皆さんが導かなければならないから、皆さんが教えなければいけないから、皆さんが彼らを助けなければいけないからです。そのために、どれくらい熱心にみことばを学んでおられますか？みことばの学びにどれほどの時間をかけておられますか？真理を正しく真理と理解し、正しいことを正しいと判断することができるような生き方を、皆さんはどれほどしておられますか？皆さんはコリント教会の人たちのように、霊的に乳しか飲むことができないようになってはいけません。もし、皆さんが乳しか飲むことができないなら、皆さんの信仰は堅く立っていません。皆さんは肉を求めて飢え渴いていなければいけないのです。

それだけではありません。単に、聖書を知っていればいいのではないのです。単に、知識があればいいのでもないのです。その知識に、みことばに生きていなければいけないのです。いったい、だれが偽善者の言うことを聞こうと思えますか？よく覚えておいてください。皆さんの家族が一番皆さんのことを知っています。皆さんの奥さんはここに居るだれもが知らない皆さんのことをよく知っています。皆さんのお子さんたちは皆さんが何を優先して生きているのかをよく分かっています。もし、皆さんが自分が言うように生きていなければ、皆さんは愛する家族を神のみもとに近づけるどころか、むしろ、彼らを主のもとから追いやっています。男性の皆さんは成長していなければいけないのです。信仰が増し加わっていなければいけないのです。皆さんはみことばの知識を蓄え続け、それに基づいて信仰に堅く立つ者でなければいけないのです。そして、神が皆さんに与えておられる働きをまっとうしていなければいけないのです。愛する者たちを守り、愛する者たちを正しく導くために。

3. 男らしくありなさい

真の男らしさは勇気に満ちた成熟にあります。パウロがここで使う「男らしくある」ということばは新約聖書にはここにしか登場しないことばですが、旧約聖書の中ではたくさん使われています。旧約聖書をギリシャ語訳にした70人訳聖書にはこのことばがよく出て来ます。そして、パウロはこのことばを用いることによって何を表現しようとしているのかというと、クリスチャンらしい男らしさです。何よりも興味深いことは、女性の皆さん、最初に話したように、このパウロの命令は教会全体に向けられていて、女性である皆さんも女らしくなければいけないのですが、でも、この特徴においては男らしくあることが勧められているのです。まして、男性の皆さん、皆さんは男であるゆえにこの特徴をしっかりと持っていなければいけないのです。このことばには成熟度と勇気という意味合いが強く含まれています。この手紙の中でパウロは、先ほども言ったように、コリントの教会の人たちが幼子であると言いました。Iコリント3:1-2にそのことが記されていました。「さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。:2 私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。」。そして、彼らがおとなになるようにとパウロは彼らに求めま

す。そのことがIコリント14：20に記されています。「兄弟たち。物の考え方において子どもであってはなりません。悪事においては幼子でありなさい。しかし考え方においてはおとなになりなさい。」、成熟した成長した男性でありなさい、いつまでも子どもであってはいけないということです。また、この教会の中には女性が男性の役割を担い、男性が自分に与えられている責任を果たさないという問題がありました。そのことが11章から14章までに書かれています。だから、パウロは言います。「男らしくありなさい」、成熟した男性として男性の役割をしっかりと果たしなさいと言うのです。

でも、同時に、このことばにはもう一つの強い意味があります。このことばはよく軍隊の中で使われることばだったのです。たとえば、旧約聖書の中にこのようなシーンがあります。Iサムエル4：6-9、ペリシテ人とイスラエルとが戦いをしていたとき、イスラエルは防戦一方だったのですが、そこに「神の箱」がやって来ます。契約の箱です。すると、神がやって来たと言ってイスラエルの人たちは大歓声を上げるのです。これでペリシテ人に勝つことができると彼らは考えて大きな喜びに包まれます。それを見ていたペリシテ人たちは言うのです。「ペリシテ人は、その歓声を聞いて、「ヘブル人の陣営の、あの大歓声は何だろう。」と言った。そして、主の箱が陣営に着いたと知ったとき、：7 ペリシテ人は、「神が陣営に来た。」と言って、恐れた。そして言った。「ああ、困ったことだ。今まで、こんなことはなかった。：8 ああ、困ったことだ。だれがこの力ある神々の手から、われわれを救い出してくれよう。これらの神々は、荒野で、ありとあらゆる災害をもってエジプトを打った神々だ。：9 さあ、ペリシテ人よ。奮い立て。男らしくふるまえ。」、たとえ、神の契約の箱が来て彼らの方に分があるとしても、ペリシテ人たちよ「男らしくふるまいなさい」、勇気を出して負けることがないという確信のもとに、やらなければならないことをまっとうすることです。このことばは「臆病さ、おどおどしさ、恐れ」といったことばと反対の位置に立ちます。やらなければならないことを勇気をもって行なう人のことを指します。このことばが使われる命令の中で最も有名なものは、神がヨシュアに対して語ったことばではないでしょうか？モーセが死に、イスラエルの民を今まさに約束の地へと導き入れなければならないという大きな責任を与えられたヨシュアに対して、神はこのように言われました。ヨシュア記1：6-9「強くあれ。雄々しくあれ。わたしが彼らに与えるとその先祖たちに誓った地を、あなたは、この民に継がせなければならないからだ。：7 ただ強く、雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じたすべての律法を守り行なえ。これを離れて右にも左にもそれではない。それは、あなたが行く所ではどこでも、あなたが栄えるためである。：8 この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行なうためである。そうすれば、あなたのすることで繁栄し、また栄えることができるからである。：9 わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」、まさにこのことが今も神が私たち男性に対して求めておられることです。

私たちが確かに、みことばの学びを通して、みことばの真理に堅く立つときに、私たちは信念を生み出します。これは正しい、これは確かに神が言われている真理だと。そして、その真理が確かにあるときに、私たちはその真理に基づいた決断を正しく行なわなければならないのです。確かに、この世は私たちに誘惑します。確かに、私たちがこの世で為さなければならない選択は困難なものが多いです。もしかすると、男性の皆さんは仕事に関して、家族について、妻との関係について、子どもとの接し方について、また、教会の中の働きについて選択をしなければならないかもしれません。この世は私たちに言います。聖書の教えではなく私たちの言うとおりにしよう、神が求めることではなくあなたが心地いいことをしようではないかと。そのときに、聖書的男らしさをもっている男性は言います。私はそれでも神が求めることを行ないますと。たとえ、この世がその選択をみて「あなたは何と愚か者だ」と言ったとしても、あらゆる人たちからけなされ馬鹿にされたとしても、神の前に男らしい人物は「これが神が求めていることだから私はそれを行ないます。神のみこころを達成するために私は生きて行きます。たとえ、それがどのようなことであつたとしても…」と言います。それが神が求めている男性の姿なのです。神は皆さんに中性的になってほしいのではありません、男らしくなってほしいのです。しっかりとその考えにおいておとなとなり、自分の責任を忠実にまっとうし、神のみこころを達成するために勇気をもって生きなさい、それがならなければならない男の姿なのです。これが教会が必要とする男性であり、すべての家庭において必要とされる男性です。

4. 強くありなさい

真的男らしさは依存する力に見ることができます。もう少し詳しく説明しましょう。パウロはここで「男らしく、強くありなさい」と言いました。これら二つの概念は多くのところで対になって使われています。この「強くある」ということばは新約聖書の中でも多く使われていますが、特に、このことばが指しているのは「内面にある力」です。内面にある力がしっかりと働くゆえに、外側にその力が見て取れることを表わすのです。ときにそれは「勇気の現われ」ということばで表現しても構わないのです。うちに

ある力が外側に出て来るのです。この「強くありなさい」ということばには興味深い点があります。継続する時制である現在形であるとともに、原文を見ると、実はこのことばは受動態が使われています。だから、敢えて受身を強調して訳すと「強くされなさい」となります。なぜ、そのようにパウロが言っているのでしょうか？私たちのうちには「力」がないのです。だから、私たちがどれほど頑張っても強くなることはできないのです。それゆえ、パウロは「あなたたちは強くされなさい」と言うのです。私たちを強くするのは私たちの働きではありません。神の働きなのです。ですから、私たちは神の前に勇気を出して言うのです、「主よ、私を強めてください」と。パウロはこのことを他の箇所でも何度か記しています。たとえば、エペソ6：10ではこのように言います。「**終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。**」と。Ⅱテモテ2：1にも同じようなことばが記されています。「**そこで、わが子よ。キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。**」。パウロが言うことは、私たちのうちには力がないけれど、神が私たちを強めてくださるということです。このことはパウロは個人的によく理解していました。Ⅱコリント12：9で「**しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。**」と云うのです。パウロはよく分かっていたのです。自分に力がないから、でも、神は言われます、だから、すばらしいのだ、あなたが弱いときにわたしの力が働いてあなたが強くなるから、あなたが求めなければいけないのは、わたしの助けであり、わたしに信頼し依存することだと。

いったい、どのようにして人は強くなることができるのでしょうか？どのようにしてこの「力」を手に入れることができるのでしょうか？主によって力づけられ強められるということに関して言うなら、私たち人間がもっている能力はいっさい関係ありません。神の力を得て生きて行くために私たちに必要なことは、私たちがどのような力をもっているかではなく、私は私自身を完全に斥け、あなたに完全に信頼しますという信仰なのです。男性の皆さん、私たちは残念ながら非常に高慢な者です。自分の力で様々なことができると思っているのです。でも、神によって強められようと思うなら、神が求めるような男性になりたいと思うなら、私たちは正しく聖書が教えるように言わなければいけません。「神さま、私はあなたの前に何一つ、どんなに小さなことでも良い正しいことを為すことができません」と。私たちは完全に墮落しているのです。神の助けがなければ何一つ良いことをすることはできません。だから、私たちはへりくだって主の前に出て「神さま、こんな私ですがあなたが求めるような者にしてください、私は何もできないけれど、どうぞ私を助けてください」と云うのです。主によって強められるためには私たちは神によって強められるという必要を覚えなければいけません。そして、神だけが私を強めてくださるという確信をしっかりと持ち、それに信頼して神が求めることを行なっていくことが大切なのです。神は私たちに対して「あなたがもっているものを見せてご覧なさい」とは言われません。神は「わたしに信頼しなさい」と言われるのです。先に読んだヨシュア1：9で神はヨシュアに言われました。「**わたしはあなたに命じたのではない。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。**」と、ヨシュアには非常に大きな責任が与えられました。困難なわざが託されました。イスラエルの民を連れてカナンを征服するという責任です。カナンを征服することは楽なことではありませんでした。皆さんよくご存じのように、イスラエルの民は一度スパイを送って、彼らがそこで見た光景のゆえに「無理だ！」と逃げ出そうとしたのです。そのような大きな責任の中で神はヨシュアに言ったのです。「**強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。**」と、ヨシュアに勇気をもってその歩みを正しく進めるようにと言ったのです。そして、神は「**あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。**」と言われたのです。わたしの力がそれを成し遂げると神は言われるのです。たとえ、不可能に思えることであっても、神がともにいてくださるなら、神の力を受けるなら、それをまっとうすることができるのです。

神は全能のお方です。神に不可能なことはない、神が望む限り神はそれは達成することができるのです。男性の皆さん、神はあなたを神が望むような男に変えることができるのです。たとえ、どのような私たちであっても、神のみこころをまっとうして正しく主に喜ばれる者として生きることができるのです。問題は、あなたがそのことを確信しているかどうかです。神は言われました。男らしく勇気をふりしぼりなさい、そして、わたしの力に頼りなさいと。皆さんの人生の中で、たとえ、エリコの城壁が目の前に立ちだかっただとしても、皆さんは恐れて逃げ出したいと願ったとしても、逃げ出す必要はないのです。神がそれを打ち崩すと言われるなら、私たちは勇気をもって神が言われる通りにその城壁の周りを回るのです。そのとき、神は私たちを強めてくださって、その城壁を見事に打ち崩すことができるのです。男性の皆さん、神を信頼しておられますか？どんなことを求められたとしても、私は主に信頼するゆえに、それをまっとうしますと言い切れますか？夫として、皆さんはキリストが教会を愛されたように仕える導き手として妻を愛するという決心を強くもっておられますか？そして、それをまっとう

しようしますか？父親として、皆さんは自分がもっているあらゆる願望を横においてでも、子どもたちが神に喜ばれる者へと変わって行くために、子どもを導き養い育てようとしていますか？皆さんは自分の信仰を子どもたちに受け継がせていますか？たとえ、それがどれだけ時間がかかったとしても、どれほどの労力を要するものであったとしても…。皆さんは神の前に忠実な生涯を正しく送るゆえに、皆さんの子どもたちが喜んで同じ道を歩みたいと、そう思うように生きておられますか？皆さんの子どもたちは皆さんの信仰生活を見て、このように言うのでしょうか？「私はお父さんのように生きることほどすばらしい生き方を見たことがないから、それ以外の生き方をするなど考えることができない。神を信じない人生ほどむなしい人生はないということを私は父の姿からはっきり見て取ることができる。」と。皆さんは言われるかもしれません。それは不可能です。私は弱いです、私は罪人です、仕事が忙しいのです、私は…。あなたはあなたを変えられることができる神に信頼をおいて、神が命じるように正しく生きようと勇気をもって歩んでおられますか？皆さんは神に喜ばれる男性になることができるのです。

5. いっさいのことを愛をもって行ないなさい

真の男らしさは犠牲的愛に見ることができます。パウロはここで読者たちに、そして、私たちに非常に大切なことを思い起こさせるのです。男らしい男性は独裁者ではないのです。男らしい男性は自分の思い通りのことをする人ではありません。男らしい男性は、相手の徳を高めるために自分のあらゆる事柄を横において、相手の最善を率先して行なう、そのような愛の行為に満ちた人物だと言います。神がそうであるように。真の男らしい男性は、1コリント13章に記されているような愛を働かせて生きている人です。真の男性は、神がご自身は神であることを捨てることはできないとは考えないで、人の姿をとって卑しくなられ、死ななくてもいいその死を自分のからだに確かに受け、私たちのために最善を、この救いをもたらそうとされたその愛を、同じように、自分の愛する妻に、自分の愛する子どもたちに、自分の愛する兄弟姉妹に為す人です。パウロは言います。「**いっさいのことを愛をもって行ないなさい。**」と。

男性の皆さん、神は皆さんが皆さんの妻を、子どもたちを、兄弟姉妹たちを神が愛されたように愛することを求めておられます。皆さんは自分自身の益を求めて生きてはいけません。皆さんは家庭においても教会においても自分の安らぎや満足を最初に求めてはいけません。むしろ、自分自身を犠牲的にささげ、たとえ、どれほど疲れていても、たとえ、どれだけ問題の中にあつたとしても、それらを横において、愛する者たちの必要のために喜んで自らをささげる生き方をしなければいけません。あらゆる事柄において。

私たちにはこのような男らしい男性が必要です。私たちはそれぞれの家庭において、自分の妻たちの霊的必要を満たしたいと心から願って生きる夫が必要です。私たちは子どもたちを正しく神が喜ぶような人生を生きることができるよう養い導きたい、それ以外の願いは私にはないというような父親が必要なのです。私たちは教会において、愛する兄弟姉妹が主の前に正しく成長して行くことができるように、彼らを弟子とし、彼らを導き、彼らを養い、彼らを守りたいと心から願う男性が必要なのです。皆さん、どうでしょう？そのような男性として生きておられますか？

男性の皆さん、神は皆さんに「男らしくありなさい」と言われます。神はわたしが造った目的に沿って、男としてしっかりその責任をまっとうして生きなさいと言われます。願わくは、先ず、私たちが率先して神が求めるような人物へと変わって行くゆえに、この教会が、皆さんのそれぞれの家庭が、この社会が神に喜ばれる姿へと益々変わって行くことができるように、そのことを何よりも願います。